

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体の構造と機能 I - 1

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	江副 史朗（えぞえ しろう）	
単位数	4 単位	実務経験	附属施術所勤務・治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

### 【授業情報】

授業概要	治療院や施術所での経験を基に鍼灸師、マッサージ師に必要な解剖学の講義を行います。まずは解剖学の意義を理解し、人体の部位に関する正しい用語を使えるようにします。次に、身近な体表解剖から始め、人体の構成、運動器系（骨・筋）を詳しく学んでいきます。さらに、運動学について学びます。
授業の一般目標 (G10)	人体の部位に関する用語を理解し、正しく使用することができる。解剖学を学ぶ者の基礎として、細胞や組織を理解し、説明できる。骨や筋肉の位置を理解し、説明できる。運動器（骨、筋）の知識をベースに体の使い方、動きを理解し、説明できる。

### 【担当教員から】

教科書	「解剖生理」 (社)東洋療法学校協会編 医歯薬出版 (株)
参考書	プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 医学書院
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う確認 (前期のみ) ・中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合 (%)) 確認試験成績 …… 10% (前期のみ) 中間試験成績 …… 10% (前期) 20% (後期) 期末試験成績 …… 80%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要で。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。解剖学の知識は実技のみならず、あらゆる科目の基礎となります。履修した内容は積み上げとなるため、日々の復習で理解を必要とします。
★担当者からの メッセージ	解剖学は人体構造学と別称するように、「人体の正常な構造」を知る学問です。疾病の治療を行うにはまず、疾病の原因が分からなければ正しい治療は出来ません。その疾病とは人体の異常を示しており、この異常を知るには「正常な構造」を知らなければ異常は見つけることは不可能です。また、患者の身体に触れるためには、骨や筋肉の正しい位置を理解する必要があります。その為の基礎的知識をこの講義で身につけます。原則として授業後の復習は必須とします。予習以上に復習に力を入れて下さい。
オフィスアワー	授業開講日の前後の時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	解剖学の意義、基礎用語、人体の構成	人体の部位に関する正しい用語が使用できる	講義
	2	人体の構成 (細胞)	細胞の構造、細胞分裂について説明できる	講義
	3	人体の構成 (組織)	上皮組織・結合組織・筋組織について説明できる	講義
	4	人体の構成 (組織)	神経組織・人体の発生について説明できる	講義
	5	骨格系 総論	骨の役割、分類、連結について説明できる	講義
	6	骨格系 (体幹)	脊柱の構造、関節について説明できる	講義
	7	骨格系 (体幹)	胸郭の構造、関節について説明できる	講義
	8	骨格系 (上肢)	上肢帯骨・上腕骨の構造について説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解答・解説		講義
	11	骨格系 (上肢)	前腕の骨・手の骨の構造について説明できる	講義
	12	上肢の運動	上肢の関節の構造・運動について説明できる	講義
	13	骨格系 (下肢)	下肢帯骨・大腿骨の構造について説明できる	講義
	14	骨格系 (下肢)	下腿の骨・足の骨の構造について説明できる	講義
	15	下肢の運動	下肢の関節の構造・運動について説明できる	講義
	16	骨格系 (頭蓋骨)	脳頭蓋の構造について説明できる	講義
	17	骨格系 (頭蓋骨)	顔面頭蓋の構造について説明できる	講義
	18	期末試験		試験
後期	19	前期期末試験の解答・解説		講義
	20	筋系 総論	筋の作用、構造、分類について説明できる	講義
	21	筋系 (頭部・頸部)	頭部・頸部の筋の起始・停止・神経・作用について説明できる	講義
	22	筋系 (胸部)	胸部の筋の起始・停止・神経・作用について説明できる	講義
	23	筋系 (腹部)	腹部の筋の起始・停止・神経・作用について説明できる	講義
	24	筋系 (背部)	背部の筋の起始・停止・神経・作用について説明できる	講義
	25	筋系 (上肢)	上肢帯・上腕の筋の起始・停止・神経・作用について説明できる	講義
	26	筋系 (上肢)	前腕・手の筋の起始・停止・神経・作用について説明できる	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解答・解説		講義
	29	筋系 (下肢)	下肢帯・大腿の筋の起始・停止・神経・作用について説明できる	講義
	30	筋系 (下肢)	下腿・足の筋の起始・停止・神経・作用について説明できる	講義
	31	上肢・下肢の関節	上肢・下肢の関節について説明できる	講義
	32	運動学	身体の重心、体幹の運動について説明できる	講義
	33	運動学	上肢の運動について説明できる	講義
	34	運動学	下肢の運動について説明できる	講義
	35	期末試験		試験
	36	後期期末試験の解答・解説		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体の構造と機能Ⅱ－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	廣井 明子（ひろい あきこ）	
単位数	4 単位	実務経験	附属施術所勤務・治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

【授業情報】

授業概要	<p>実務経験をもとに、臨床の現場で遭遇しやすい疾患の病態を理解できるよう、まずは正常な身体の働きを話していく。</p> <p>人体構造学は、身体の正常な構造と機能に関する知識を習得する学問で、医療人を目指す学生にとって重要な基礎医学の1つである。</p> <p>前期では、生命の営み（＝生命現象）のメカニズムに焦点をあて、身体の中にあるさまざまな器官（心臓、肺、胃や腸、筋肉など）の正常な働きと、それらがどのように関連しながら働いているかを学ぶ。</p> <p>後期では、前期に修得した基礎知識の幅を広げるため、細胞の働き、体液、血液、循環器系、呼吸器系、体温についてさらに理解を深めていく。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>人体の構造や機能に関心を持ち、積極的に学習する態度を身につける。</p> <p>身体がどのような仕組みと働きをもっているのかを、解剖学で得られる知識と関連づけて理解し、人にわかりやすく説明することができる</p>

【担当教員から】

教科書	「解剖生理」医歯薬出版（株）
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う確認・中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	<p>成績評価の基準（評価割合（%））</p> <p>確認試験成績 …… 10%（前期のみ）</p> <p>中間試験成績 …… 10%（前期）、20%（後期）</p> <p>期末試験成績 …… 80%</p>
履修の条件 留意点	<p>前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。生理学の内容は積み上げ型です。前に講義した内容に新しい内容が積み上がっていきます。毎回の授業内容をよく聴いて理解し、わからないまま次回の授業を迎えることがないようにしてください。</p>
★担当者からの メッセージ	<p>生理学は「人体の正常な働き」を知る学問です。正常な機能を知ることは、「機能の異常＝病気」の原因や成り立ちへの理解、そして治療への道標にもなります。その為の基礎的知識を本科目で身につけて下さい。</p> <p>生理学は言葉だけの暗記科目ではありません。まず言葉（単語）を覚え、その言葉を使って身体の働きを人に説明できるようになることを目指してください。そのためには日々の学習が重要です。受講後は、講義内容を教科書やプリントを利用して復習するよう心掛けてください。</p> <p>また疑問点を放置せず、自ら調べる、積極的に質問に来るなどして解決し、次に進んでください。</p>
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	生理学の基礎	生理機能の特徴を理解する	講義
	2	循環(血液)	血液の機能の概要を理解する	講義
	3	循環(心臓・血管)	心臓・血管系の機能の概要を理解する	講義
	4	呼吸	呼吸器系の機能の概要を理解する	講義
	5	消化・吸収	消化器系の機能の概要を理解する	講義
	6	代謝	代謝の概要を理解する	講義
	7	体温	体温調節の概要を理解する	講義
	8	排泄	腎臓の機能の概要を理解する	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	内分泌	ホルモンの概要を理解する	講義
	12	神経(神経一般、末梢神経系)	神経系の機能の概要を理解する	講義
	13	神経(中枢神経系)	神経系の機能の概要を理解する	講義
	14	筋	骨格筋の機能の概要を理解する	講義
	15	運動	身体運動の概要を理解する	講義
	16	感覚	感覚器系の機能の概要を理解する	講義
	17	期末試験		試験
	18	期末試験の解説・解答		講義
後期	19	内部環境と恒常性、細胞膜の構造と機能、細胞質と細胞小器官	内部環境の恒常性、細胞膜の性質、細胞小器官の種類と働きを説明できる	講義
	20	核、核酸、蛋白質合成、物質代謝、体液の組成・浸透圧	核酸(DNA・RNA)の働き、蛋白質合成のしくみ、物質代謝、体液の組成・浸透圧を説明できる	講義
	21	体液pH、酸塩基平衡、物質輸送、血液の成分	体液のpH、酸塩基平衡、生体内での物質移動、血液の成分を説明できる	講義
	22	血漿(機能、血漿蛋白)、赤血球(機能、新生と寿命、ビリルビン排出)	血漿蛋白の働き、赤血球の新生に不可欠な因子や寿命、ビリルビンの生成過程を説明できる	講義
	23	白血球(機能、新生と寿命)、血小板(機能、新生と寿命)、止血・血液凝固、線維素溶解	白血球や血小板の働き・新生と寿命、止血・血液凝固、線維素溶解のしくみを説明できる	講義
	24	血液型(ABO式・Rh式)、心臓の構造、心筋の性質、刺激伝導系	血液型の分類と赤血球の凝集反応、心臓の構造、心筋の性質、刺激伝導系について説明できる	講義
	25	心周期、心音、心電図、血管の構造	心拍動の周期・心音、心電図、血管の構造について説明できる	講義
	26	動脈・毛細血管・静脈の機能、血圧	動脈・毛細血管・静脈の働き、静脈還流を促す因子、血圧に影響を与える因子を説明できる	講義
	27	中間試験		試験
	29	心臓・血管の神経支配、循環の反射性調節	心臓・血管を支配している神経とその働き、循環調節のしくみを説明できる	講義
	30	特殊循環、リンパ系	特殊部位の循環の特徴、リンパ系の働き、リンパ輸送を促す因子について説明できる	講義
	31	呼吸器系、呼吸運動、胸腔内圧	呼吸器系、呼吸運動のメカニズム、胸腔内圧について説明できる	講義
	32	肺機能、ガス交換、ガス運搬、呼吸の反射性調節	肺気量、ガス交換のしくみ、血液中のガス運搬、呼吸調節のしくみを説明できる	講義
	33	体温の部位差・変動、産熱・放熱、汗腺・発汗	体温の部位差・変動、産熱と放熱の因子、汗腺・発汗の種類について説明できる	講義
	34	体温調節、気候順化、発熱・うつ熱	体温調節のしくみ、環境変化に適応する現象、発熱・うつ熱が生じるしくみを説明できる	講義
	35	期末試験		試験
	36	期末試験の解答・解説		講義

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防、回復の促進

【科目】 疾病・障害の診断と治療学Ⅰ

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	稲葉 崇 (いなば たかし)	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務	
科目必選区別	必修	時間数	36	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

### 【授業情報】

授業概要	<p>施術所での実際の患者様との医療面接の経験を元に、診察の一般的心得を学び、医療者としての心構えを築いていく。</p> <p>医療面接から始まる診察の概要を理解し、実際に行う診察の方法を学んでいく。</p> <p>全身または局所の診察の方法を学び、異常があった場合の疾患を推定することができる。また学んだ内容を臨床実習の場において適切に行動に移すことができる。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>診察の意義と必要性を理解し、適切な用語を使用することができる。</p> <p>POS (POMR) の概念を理解し、説明できる。</p> <p>各種の診察方法を理解し、適切に行うことができる。</p> <p>正常所見を理解し、異常所見と区別することができる。</p>

### 【担当教員から】

教科書	臨床医学総論 第2版 (医歯薬出版株式会社)
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、筆記試験の結果を評価とする。
成績評価方法	<p>成績評価の基準 (評価割合 (%))</p> <p>中間試験 ----- 20%</p> <p>期末試験 ----- 80%</p>
履修の条件 留意点	後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。わからないことがあったら是非自分で調べるクセをつけてください。
★担当者からの メッセージ	「臨床医学」の名のとおり実際の臨床を前提とした科目になりますので、臨床実習や将来の現場で必ず必要となる内容を学習していきます。同じ「臨床医学」である「各論」も参照しながら、また内容によっては「解剖学」や「生理学」「リハビリテーション医学」の知識も必要となりますので、それらの内容と学んだ知識を結びつけながら学習していくと良いと思います。疾患名が沢山出てきますので復習の時間をより多く取ると良いと思います。
オフィスアワー	授業曜日の午前中、または放課後

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	診察の概要	診察方法の概要を学び、意義や心得、用語を理解することができる	講義
	2	診察の方法 1	医療面接の意義と方法、注意事項を学び実践することができる	講義
	3	診察の方法 2	POS、POMRの基礎を学び、各項目を理解することができる 視診、触診、打診、聴診の方法を学ぶ	講義
	4	生命徴候 1	体温と脈拍の正常な数値を学ぶ またその値の逸脱した状態の疾患を想定できる	講義
	5	生命徴候 2	血圧と呼吸の正常な数値を学ぶ またその値の逸脱した状態の疾患を想定できる	講義
	6	全身の診察 1	特徴的な顔貌や顔色の異常を学び原因となる疾患を理解する 精神状態を表す言葉の意味を知る	講義
	7	全身の診察 2	構語障害と失語症について、その種類と原因などを理解する 身体を測定することができる	講義
	8	全身の診察 3	BMIを求めることができる 特徴的な姿勢をとる疾患を理解する	講義
	9	中間試験		試験
	10	全身の診察 4	正常歩行の基礎を理解する また異常歩行の歩容と原因を結びつけることができる	講義
	11	全身の診察 5	皮膚や粘膜の色調の変化、性状とその原因、発疹の種類などを理解する	講義
	12	全身の診察 6	浮腫の種類と原因を理解する リンパ節腫脹、その他の一般的状態を理解する	講義
	13	局所の診察 1	頭部、顔面、眼に起こる異常所見と疾患を理解する	講義
	14	局所の診察 2	鼻、耳、口腔、頸部、胸部、乳房に起こる異常所見と疾患を理解する	講義
	15	局所の診察 3	肺や胸膜、心臓、腹部に起こる異常所見と疾患を理解する	講義
	16	局所の診察 4	背部、四肢に起こる異常所見と疾患を理解する	講義
	17	期末試験		試験
	18	テスト反省・授業総括		講義

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防、回復の促進

【科目】 疾病・障害の診断と治療学Ⅱ－1

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	佐藤 亨子（さとう きょうこ）	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務・治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

### 【授業情報】

授業概要	実務経験をもとに、臨床の現場で遭遇する機会が多い疾患だけでなく、施術してはならない疾患についても触れ、あはきに適応か否かを判断する材料をどのように増やしていくのか等も踏まえて学習していく。 臨床医学各論では、医療の専門職を目指す上で必要となる疾患についての西洋医学的な基礎知識を習得することを目的とする。
授業の一般目標 (GIO)	代表的な呼吸器疾患・代謝疾患・血液疾患・循環器疾患について、疫学、原因・成り立ち、症状・所見を、解剖学や生理学で得られる知識と関連づけて理解し、説明することができる。

### 【担当教員から】

教科書	「臨床医学各論」第2版 医歯薬出版（株）
参考書	
成績評価基準	評価の観点とは 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合） 中間試験成績――― 20% 期末試験成績――― 80%
履修の条件 留意点	後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。初めての用語が多数出てきます。毎回の授業内容をよく聴き、わからないまま次回の授業を迎えることがないようにしてください。
★担当者からの メッセージ	医療の現場では、鍼灸・あん摩マッサージ指圧の施術を行って良い疾患か否かを素早く判断しなければなりません。的確に判断するためには、施術の適応となる疾患をはじめ、色々な病気の知識が必要です。 解剖学や生理学で学ぶ内容を土台として、病気発生のメカニズムや症状を説明できるよう目指してください。 原則として受講後の復習は必須とします。 疑問点、わからない点は積極的に質問に来てください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間、または放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	呼吸器疾患：感染性呼吸器疾患	上気道炎、急性気管支炎、肺炎について説明できる	講義
	2	：感染性呼吸器疾患	肺結核、非結核性抗酸菌症について説明できる	講義
	3	：閉塞性呼吸器疾患	COPD（肺気腫・慢性気管支炎）について説明できる	講義
	4	：アレルギー性疾患 ：拘束性呼吸器疾患	気管支喘息について説明できる 間質性肺炎・肺線維症について説明できる	講義
	5	：その他の呼吸器疾患	気胸、肺癌、気管支拡張症、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群について説明できる	講義
	6	代謝・栄養疾患：糖代謝異常	糖尿病について説明できる	講義
	7	：脂質代謝異常	脂質異常症（高脂血症）、肥満症、るいそについて説明できる	講義
	8	：尿酸代謝異常、 ビタミン欠乏症・過剰症	高尿酸血症、痛風について説明できる ビタミン欠乏症・過剰症について説明できる	講義
	9	中間試験 血液・造血器疾患：赤血球疾患	貧血について説明できる	試験
	10	中間試験の解説・解答 ：赤血球疾患	貧血について説明できる	講義
	11	：白血球疾患 ：リンパ系疾患	白血病について説明できる 悪性リンパ腫について説明できる	講義
	12	：出血性素因	紫斑病、血友病について説明できる	講義
	13	循環器疾患：心臓疾患	心不全、心臓弁膜疾患について説明できる	講義
	14	：心臓疾患	不整脈、先天性心疾患について説明できる	講義
	15	：冠動脈疾患	狭心症、心筋梗塞について説明できる	講義
	16	：脈管疾患	動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離について説明できる	講義
	17	期末試験		試験
	18	期末試験の解説・解答 ：血圧異常	高血圧症、低血圧症について説明できる	講義



## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防、回復の促進

【科目】 疾病・障害の診断と治療学Ⅲ

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	海塩 洋一（うしお よういち）	
単位数	2 単位	実務経験	施術所勤務経験あり	
科目必選区別	必修	時間数	36	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

### 【授業情報】

授業概要	自らの治療院、医療機関での臨床経験から、安全な施術を行うために衛生学の知識がどの様に関わるかについて触れつつ、衛生学・公衆衛生学を学ぶ意義を理解して、東洋療法専門技術者として必要な保健医療福祉の基本的事項を学修する。
授業の一般目標 (GIO)	医療人として、患者の心と身体を健康にすること、そして自らの健康を維持し、常に最高の臨床能力を発揮することは大切なことである。そのために、疾病の原因とその予防法を理解し、健康の維持・増進を図ることができるようにする。

### 【担当教員から】

教科書	「衛生学・公衆衛生学」 第2版(社)公益社団法人 東洋療法学校協会 (株) 医歯薬出版
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合(%)) 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件留意点	後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。「健康とはなにか。」自らが健康であるための知識も学修し、後に患者に健康福祉についての知識・情報を伝える役割を担うことを意識して、学修に取り組んでください。
★担当者からのメッセージ	感染症や消毒法など医療に関わる者としての基本的知識を学修します。原則として授業後の復習は必須とします。予習以上に復習に力を入れて下さい。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	感染症とその対策（発生要因・病原微生物の種類）	・病原微生物の種類が分類できる	講義
	2	感染症とその対策（発生要因・感染経路）	・感染経路の分類ができる	講義
	3	感染症とその対策（感染症法）	・1～5類感染症の分類ができる	講義
	4	感染症とその対策（免疫）	・免疫のしくみ・種類が説明できる ・ワクチンの種類が分類できる ・定期予防接種と任意接種が分類できる	講義
	5	消毒法（物理的消毒法・化学的消毒法）	・特徴と消毒対象が説明できる	講義
	6	ライフスタイルと健康（食中毒）	・食中毒の原因とその予防法が説明できる	講義
	7	ライフスタイルと健康（国民の栄養・喫煙と健康）	・国民健康・栄養調査による近年の動向が説明できる ・喫煙（受動喫煙を含む）によるリスクと近年の動向が説明できる	講義
	8	環境と健康（物理的環境要因：電離放射線・非電離放射線）	・電離放射線と非電離放射線の種類と特徴が説明できる ・電離放射線と非電離放射線による障害が説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・環境と健康（化学的環境要因）	・化学的環境要因の概要を説明できる	講義
	11	環境と健康（化学的環境要因：空気）	・大気的正常成分と異常成分の分類と特徴が説明できる	講義
	12	環境と健康（化学的環境要因：水）	・上水道・下水道の普及率と水質管理が説明できる	講義
	13	環境と健康（化学的環境要因：廃棄物）	・廃棄物の現状が説明できる	講義
	14	環境と健康（公害・環境問題）	・公害の特徴と原因物質が説明できる ・地球規模の環境問題の特徴と原因物質が説明できる	講義
	15	産業保健（関係法規）	・労働衛生法規の内容が説明できる	講義
	16	産業保健（労働災害と業務上疾病）	・近年の動向が説明できる ・業務上疾病の原因が説明できる	講義
	17	後期期末試験		試験
	18	後期期末試験の解説・解答	・試験解説・解答	講義

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 保健医療福祉とあはきの理念

【科目】 保健と医療Ⅰ

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	稲葉 崇 (いなば たかし) 東郷 俊宏 (とうごう としひろ)
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務
科目必選区分	必修	時間数	36
開講学期	前期	授業形態・回数	講義 18 回

### 【授業情報】

授業概要	<p>施術所での患者対応の経験を生かし、医療人としての姿勢に触れ、将来優れた医療人となるため、臨床を前提とした必要な基本的知識、技術及び態度を身につけ、生涯にわたる学習の基盤をつくることを目的とする。</p> <p>この授業で学んだ内容を今後行われる臨床実習に生かすことができる。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>医療人に求められる素養を身につけ、あはき師としての職業倫理を育む。</p> <p>他学生とのコミュニケーションを通じて、良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>生命徴候 (バイタルサイン) の正常な状態を知り、各生命徴候が測定できる。</p> <p>主要な関節可動域 (ROM) の計測ができる。</p> <p>鍼灸の基礎的知識を理解し、また鍼灸業界の現状を学ぶ。</p>

### 【担当教員から】

教科書	臨床医学総論、リハビリテーション医学 第4版、はりきゅう理論など
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期の中間や期末に行う実技や筆記試験の結果を評価とする。
成績評価方法	<p>成績評価の基準 (評価割合 (%))</p> <p>中間試験 ----- 20%</p> <p>期末試験 ----- 80%</p>
履修の条件 留意点	前期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。グループワークや各バイタルサインの測定など積極的に授業に参加して下さい。
★担当者からの メッセージ	あん摩マッサージ指圧師や鍼灸師、つまり医療人として知っておかなければならない職業的な倫理や基礎的な内容を科目横断的に勉強していきます。新しい環境で初めて聞く医療用語に戸惑うこともあるかと思いますが、これから医療人になるにあたっての必要な内容ばかりです。授業後の復習を必ず行い、知識を蓄えていきましょう。
オフィスアワー	授業時間曜日の昼休み、または放課後

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	ガイダンス	授業概要、目的の説明	講義
	2	医の倫理・職業倫理 1	医療人としての態度や自覚を身につけ、職業倫理を涵養することが出来る	講義
	3	医の倫理・職業倫理 2		講義
	4	医の倫理・職業倫理 3		講義
	5	鍼灸理論 1		鍼灸治療の特長と用具について理解する
	6	鍼灸理論 2	刺鍼の方式と術式を理解し特殊鍼法の種類を知る	講義
	7	鍼灸理論 3	灸の材料や線香について、また灸術の種類を知る	講義
	8	鍼灸理論 4	鍼灸療法の適応症や禁忌、またリスクについて知る	講義
	9	中間試験		試験
	10	POS/SOAP	現代の医療システムを知る	講義
	11	関節可動域 1	関節可動域 (ROM) において、上肢・下肢の主要な関節の角度を測ることが出来る	講義
	12	関節可動域 2		講義
	13	関節可動域 3		講義
	14	医の倫理・職業倫理 4	医療人としての心構えを確認する	講義
	15	バイタルサイン 1	各バイタルサインの正常な値を知り、適切に計測することが出来る	講義
	16	バイタルサイン 2		講義
	17	期末試験		試験
	18	テスト反省・授業総括		講義

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 基礎あはき学

【科目】 基礎東洋医学Ⅰ

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	野澤 崇信 (のざわ たかのぶ)		
単位数	4 単位	実務経験	附属施術所勤務		
科目必選区分	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	36 回

### 【授業情報】

授業概要	東洋医学の概論を学ぶ科目です。東洋医学の基礎的な理論から東洋医学における人体のとらえ方や自然界との関わり合いを知るとともに、東洋医学的な人体の構造や機能から病証・病機を理解します。不定愁訴などの症状に対して治療をする際にも役立つ科目です。自身の治療経験に基づき、実際にあった臨床例などもあげて理論と活用方法をイメージしていきます。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人体における陰陽を説明できる。</li> <li>・ 五行学説の基本が説明できる。</li> <li>・ 狭義の五神を説明できる。</li> <li>・ 生体物質（精・気・血・津液）の生理や病期を説明できる。</li> <li>・ 五臓の生理や病理を説明できる。</li> <li>・ 病因を列挙できる。</li> <li>・ 蔵象を説明できる</li> <li>・ 弁証の違いを説明できる。</li> </ul>

### 【担当教員から】

教科書	「新版 東洋医学概論」第1版 (株) 医道の日本社
参考書	
成績評価基準	評価の観点とは1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合(%)） 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。専門用語の暗記は必須となりますが、系統立てて理解することに力を入れてください。
★担当者からの メッセージ	東洋医学は人体と自然界との関わりを重要視する学問です。気、血、津液、神、外邪など東洋医学に見られる特有の単語が多く出現して来ますが、日常で起こりうる自然現象や身体におこる病気に対して述べられた経験的なものを示しています。西洋医学は数値や画像など客観性から病気を見つけていくのに対して、東洋医学は四診（見る、聞く、訪ねる、触る）を通して身体の異常を導き出し、幅広い情報から病証（病気）を判断していきます。そのため、西洋医学では数値で異常がでないものに対しても、身体症状があれば病気とみなし、治療をすることができます。病証を見つけるには「正常な機能」を知らなければいけません。その為の基礎的知識をこの講義で身に付けます。原則として授業後の復習は必須とします。予習以上に復習に力を入れて下さい。
オフィスアワー	授業開講日の12:50~13:20、17:15~17:45 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	天人合一思想、陰陽学説、五行学説、虚実、標本を学ぶ	東洋医学的な人体の見方が説明できる (この段階では、大まかでよい)	講義
	2	対立と互根、対立と制約、消長と転化、可分を学ぶ	陰陽学説が説明できる	講義
	3	陰陽の生理、陰陽の病理を学ぶ	陰虚、陰盛、陽虚、陽盛が説明できる	講義
	4	五行の関係を学ぶ	相生、相克、相乗、相侮が説明できる	講義
	5	自然界の五行、人体の五行、飲食物の五行を学ぶ	五方、五色、五時、五能、五気、五音、五臭、五臓、五華、五官、五液、五味、五体、五神、五脈、五志、五声、五病、五勞、五果、五菜、五畜、五穀が説明できる	講義
	6	狭義の神である五神を学ぶ	五神や七情の生理や病理を説明できる	講義
	7	精や気、血について学ぶ	精や気、血の生理や病理を説明できる	講義
	8			講義
	9	中間試験		試験
	10	津液や生体物質の相互関係について学ぶ	津液の生理や病理を説明できる	講義
	11	肝系統の生理や病理、病証について学ぶ	肝系統の生理や病理を説明できる	講義
	12	心系統の生理や病理、病証について学ぶ	心系統の生理や病理を説明できる	講義
	13	脾系統の生理や病理、病証について学ぶ	脾系統の生理や病理を説明できる	講義
	14	肺系統の生理や病理、病証について学ぶ	肺系統の生理や病理を説明できる	講義
	15	腎系統の生理や病理、病証および三焦について学ぶ	腎系統の生理や病理を説明できる	講義
	16	五臓の生理や病理、病証について学ぶ	五臓の生理や病理を説明できる	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解答・解説		講義
後期	19	外感病因について学ぶ	風邪・寒邪・暑邪の特徴を説明できる	講義
	20		湿邪・燥邪・火邪の特徴を説明できる	講義
	21	内傷病因、病理産物とその他の要因について学ぶ	内傷病因、病理産物の要因を説明できる	講義
	22	蔵象 心・脾・肝の相互関係	心・脾・肝の相互関係が説明できる	講義
	23	蔵象 心・肺・脾の相互関係	心・肺・脾の相互関係が説明できる	講義
	24	蔵象 肺・脾・腎の相互関係	肺・脾・腎の相互関係が説明できる	講義
	25	蔵象 脾・肝・腎の相互関係	脾・肝・腎の相互関係が説明できる	講義
	26	蔵象 肺・脾・肝の相互関係	肺・脾・肝の相互関係が説明できる	講義
	27	蔵象 心・脾・腎の相互関係 中間試験	心・脾・腎の相互関係が説明できる	試験
	28	蔵象 心・脾・腎の相互関係 中間試験の解説・解答	心・脾・腎の相互関係が説明できる	講義
	29	六腑の協調関係と全身の気機 其の一、二	六腑と五臓の相互関係が説明できる 全身の気機が説明できる	講義
	30	八綱・気血津液・臟腑弁証	八綱・気血津液・臟腑弁証が説明できる	講義
	31	経絡弁証、六淫弁証、六經弁証、三焦弁証、衛気營血弁証、標本と主客	それぞれの弁証方法が説明できる すべての弁証が区別できる	講義
	32	病機	病機を把握する事ができる	講義
	33		内風、内寒の発生機序が説明できる	講義
	34	内生五邪	内湿、内燥、内熱・内火の発生機序が説明できる	講義
	35	期末試験		試験
	36	期末試験の解説・解答		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 基礎あはき学

【科目】 基礎東洋医学Ⅱ

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	今泉 順子 (いまいずみ じゅんこ)		
単位数	4 単位	実務経験	鍼灸マッサージ治療院 院長		
科目必選区分	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	36 回

【授業情報】

授業概要	臨床では、患者さん本人も気づかずにいる、身体からのサインをツボにみることが出来ます。どんなツボにどんなサインが出やすいかに触れつつ、人体にある経穴（ツボ）や経絡について、図譜や人体模型を使いながらその部位や取穴法（ツボの取り方）や解剖学的構造を学習するとともに、臨床経験を生かして、施術における基本的な治療点を理解していきます。
授業の一般目標 (G10)	経絡・経穴についての概略を学ぶ。 東洋医学の考え方を踏まえ、経絡の概略と経穴を理解するための基礎知識を学ぶ。 正経十二経の各経絡の概略を学ぶ。 奇経八脈の概略と任脈経・督脈経の各論を学ぶ。 正経以外にも経穴（経外奇穴）があることを理解する。

【担当教員から】

教科書	「新版 経絡経穴概論」 日本理療科教員連盟 社団法人東洋療法学校協会 編集
参考書	
成績評価基準	評価の観点知識の浸透度と理解度とし、授業内の小テストおよび中間試験・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合(%)） 期末試験成績-----70% 中間試験成績-----20% 課題(授業内小テスト・レポート等)提出---10%
履修の条件留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からのメッセージ	経絡は東洋医学を構成する大切な学問のひとつであり、経絡上に存在する経穴は体表に現れる病気の反応点かつ治療点となります。覚えることが多く大変と思いますが、小テストなどで浸透度を確認しながら、進めていきます。ぜひ一緒に頑張っていきましょう！
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	1. 経絡・経穴の誕生 2. 臓腑の概要 3. 経絡の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>手足の三陰・三陽と臓腑の結びつきを説明できる</li> <li>五臓・六腑・奇恒の腑の説明ができる</li> <li>正経十二経の流注の原則を説明できる</li> <li>奇経八脈の名称・特徴を説明できる</li> <li>経絡系統（経別、絡脈、経筋）の概略を説明できる</li> </ul>	講義
	2	4. 経穴の概要 1) 腧穴について 2) 経穴について 3) 経穴部位の決定方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>腧穴の概念を説明できる</li> <li>骨度法に従い、身体の各部位とその寸分を説明できる</li> <li>同身寸法による計測について説明できる</li> </ul>	講義
	3	4. 経穴の概要 4) 取り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>取穴の際にふさわしい体位を理解し、説明できる</li> <li>五行穴、五俞穴について、それぞれの要穴の意義を説明できる</li> </ul>	講義
	4	5) 要穴の概要 6) 禁鍼穴・禁灸穴	<ul style="list-style-type: none"> <li>四総穴、八会穴、八脈交会穴（八宗穴）の意義を説明できる</li> <li>禁鍼穴・禁灸穴について説明できる</li> </ul>	講義
	5	経穴の取り方に必要な用語	<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖学肢位、方向に関する用語が理解できる</li> <li>経穴部位を理解するための体表指標を説明できる</li> <li>経穴部位の表記に使われる体表区分を説明できる</li> </ul>	講義
	6	督脈	<ul style="list-style-type: none"> <li>督脈経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	7	任脈	<ul style="list-style-type: none"> <li>任脈経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	8	手の太陰肺経	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の太陰肺経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答 手の陽明大腸経	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の陽明大腸経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	11	足の陽明胃経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の陽明胃経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	12	足の太陰脾経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の太陰脾経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	13	足の太陰脾経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の太陰脾経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	14	手の少陰心経	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の少陰心経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	15	手の太陽小腸経	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の太陽小腸経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	16	足の太陽膀胱経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の太陽膀胱経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	17	足の太陽膀胱経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の太陽膀胱経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	18	前期期末試験		試験
後期	19	前期期末試験の解説・解答		講義
	20	足の少陰腎経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の少陰腎経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	21	手の厥陰心包経	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の厥陰心包経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	22	手の少陽三焦経	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の少陽三焦経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	23	足の少陽胆経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の少陽胆経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	24	足の少陽胆経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の少陽胆経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	25	足の厥陰肝経	<ul style="list-style-type: none"> <li>足の厥陰肝経の流注の概要、所属経穴名、取穴部位を説明できる</li> </ul>	講義
	26	手の三陰経、手の三陽経、足の三陰経、足の三陽経の流注の概略	<ul style="list-style-type: none"> <li>手足の三陰経、三陽経の流注の概要が説明できる</li> <li>経脈と臓腑の属絡関係を説明できる</li> </ul>	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解説・解答 五行穴	<ul style="list-style-type: none"> <li>五行穴の意義、主治、部位の説明ができる</li> </ul>	講義
	29	五要穴	<ul style="list-style-type: none"> <li>五要穴の意義、主治、部位の説明ができる</li> <li>八総穴、四総穴、八会穴、下合穴の意義、部位の説明ができる</li> </ul>	講義
	30	任脈経	<ul style="list-style-type: none"> <li>任脈経の経穴の解剖学的位置、要穴を説明できる</li> </ul>	講義
	31	督脈経	<ul style="list-style-type: none"> <li>督脈経の経穴の解剖学的位置、要穴を説明できる</li> </ul>	講義
	32	衝脈・帯脈・陽蹻脈・陰蹻脈・陰維脈・陽維脈	<ul style="list-style-type: none"> <li>衝脈・帯脈・陽蹻脈・陰蹻脈・陰維脈・陽維脈の特徴を説明できる</li> </ul>	講義
	33	奇穴（部位・主治）頭頸部・胸腹部・背部・上肢部	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭頸部、胸腹部、背部、上肢の奇穴の部位を説明できる</li> <li>各々の奇穴の主治を説明できる</li> </ul>	講義
	34	奇穴（部位・主治）上肢部・下肢部・よく知られている経穴の組合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>上肢部・下肢部の奇穴、よく知られている経穴の組合せについて説明できる</li> <li>各々の奇穴・組合せ穴の主治を説明できる</li> </ul>	講義
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解説・解答		講義



2025年度 鍼灸マッサージ科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 あん摩マッサージ指圧実習－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	行木 由紀子 (なめき ゆきこ)	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務、治療室勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習 36 回

【授業情報】

授業概要	あん摩の意義を理解して基本手技を学修し、繰り返し練習することによって体得する。二人一組、三人一組で身体の各部位に対する基本手技を練習する。特に施術者の姿勢・立ち位置・体重移動を学び、適切に基本手技が行えることを目指す。
授業の一般目標 (GIO)	安全に施術を行うため、禁忌症や施術に関する注意事項を理解する。按摩に関する基本的な知識・技術を学修し、施術者の姿勢・被施術者の体位などを含む基本操作を学び、按摩の基本手技を正確に行える。

【担当教員から】

教科書	「按摩・マッサージ・指圧 (新版) 実技編」 編集・発行 学校法人 呉竹学園
参考書	「あん摩マッサージ指圧理論」 (医道の日本社) 公益社団法人 東洋療法学校協会
成績評価基準	評価の観点は 1) あん摩の基本手技の意義の理解 2) 基本手技の習熟度 各学期中間 (実技試験) ・ 期末試験 (口頭試問 + 実技試験)
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合 (%)) 確認試験成績 ----- 20 % 期末試験成績 ----- 80 % (期末試験内容 : 口頭試問 (基本手技の確認) + 実技試験 (部位別按摩) )
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が 60 % 以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。欠席は授業内容がわからなくなるだけではなく、ペアの相手にも迷惑になりますので欠席しないようにしてください。
★担当者からの メッセージ	あん摩の歴史と意義を学び、基本手技を練習します。繰り返し何度も練習することによって技術を体得していきます。授業は、はじめに教員によるデモンストレーションを見学し、二人一組もしくは三人一組となり互いに練習します。その際に教員は個別に指導していきます。わからないところは質問してください。 原則として授業後の復習が大切です。実技室開放を利用して練習してください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	按摩の意義と沿革、按摩・マッサージ・指圧の相違点	・按摩の歴史を理解し、概要を説明できる。 ・按摩・マッサージ・指圧の相違点、按摩の目的を理解できる	講義
	2	禁忌症や施術上の注意点、施術者としての注意点	・禁忌症や施術上の注意点を説明できる	講義
	3	基本手技（軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法）	・基本手技を練習し、方法を理解できる	実習
	4	基本手技（叩打法、曲手、運動法）	・基本手技を練習し、方法を理解できる	実習
	5	部位別（坐位：肩・肩背・腰部）	・基本手技を正しく行える	実習
	6	部位別（坐位：肩・肩背・腰部）		実習
	7	部位別（坐位：肩・肩背・腰部）		実習
	8	部位別（坐位：肩・肩背・腰部）		実習
	9	確認試験	・基本手技が正しく行えるか確認できる	試験
	10	部位別（坐位：上肢）	・基本手技を正しく行える	実習
	11	部位別（坐位：上肢）		実習
	12	部位別（坐位：頸部）		実習
	13	部位別（坐位：頭部）		実習
	14	部位別（坐位：肩・肩背・腰部・上肢・頸部）		実習
	15	部位別（坐位：肩・肩背・腰部・上肢・頸部）		実習
	16	部位別（坐位：肩・肩背・腰部・上肢・頸部）	実習	
	17	期末試験 1（口頭試問：基本手技の確認）	・坐位：肩背・腰部・頸部・上肢への叩打法、曲手が正しく行えるか確認できる	試験
	18	期末試験 2（実技試験：部位別按摩）	・坐位：肩背・腰部・頸部・上肢への軽擦法、揉捏法、振せん法、運動法が正しく行えるか確認できる	試験
後期	19	部位別（側臥位：肩・肩背・腰部）	・基本手技を正しく行える	実習
	20	部位別（側臥位：肩・肩背・腰部）		実習
	21	部位別（側臥位：頸部）		実習
	22	部位別（側臥位：上肢）		実習
	23	部位別（側臥位：肩・肩背・腰部・頸部・上肢）		実習
	24	部位別（側臥位：臀部）		実習
	25	部位別（側臥位：下肢後面）		実習
	26	部位別（側臥位：肩・肩背・腰部・頸部・上肢・殿部・下肢）	実習	
	27	確認試験	・基本手技が正しく行えるか確認できる	試験
	28	部位別（背臥位：下肢前面・外側）	・基本手技を正しく行える	実習
	29	部位別（背臥位：下肢前面・外側）		実習
	30	部位別（背臥位：下肢内側）		実習
	31	部位別（背臥位：下肢前面・外側・内側）		実習
	32	部位別（側臥位：臀部・下肢後面、背臥位：下肢前面・外側・内側）		実習
33	部位別（背臥位：腹部）	実習		
34	部位別（背臥位：腹部）	実習		
35	期末試験 1（口頭試問：基本手技の確認）	・叩打法、曲手が正しく行えるか確認できる	試験	
36	期末試験 2（実技試験：部位別按摩）	・軽擦法、揉捏法、振せん法、運動法が正しく行えるか確認できる	試験	

## 2025年度 鍼灸マッサージ科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 あん摩マッサージ指圧実習－1

## 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	挽野 陽子 (ひきの ようこ)	
単位数	2 単位	実務経験	鍼灸マッサージ院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習 36 回

## 【授業情報】

授業概要	マッサージの特徴を理解し、按摩・指圧との手技を区別できるようにする。マッサージの基本手技を理解し体得すること、身体各部のマッサージの施術順序を覚え体得することを目標とする。
授業の一般目標 (GIO)	マッサージの特徴を理解するためにマッサージの歴史や沿革、按摩・指圧との手技の違いなど基本的事項を身に付ける。また、マッサージ施術を習得するために、各部位のマッサージ手技を通して基本動作や患者に対する配慮を身に付ける。注意事項を理解し、安全にマッサージを行える技術を身に付ける。

## 【担当教員から】

教科書	按摩・マッサージ・指圧 (新版) —実技編— 学校法人 呉竹学園
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合 (%)) * 衛生面は減点方式とする 【前期】 小テスト----- 10% テスト----- 90% 【後期】 小テスト----- 20% テスト----- 80%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	1年生で、テキストにある上下肢各部位へのマッサージの施術を習得することになります。習得するためには、1回の授業を大切に、施術の練習をすることです。そして、授業の記憶があるうちに、自分のマッサージのノート作りをしてください。ほとんどの授業が1部位1回で進行が早いので、ノート作りをすることで自分の理解できていない所がはっきりします。理解できていない所は、必ず質問に来て下さい。また、施術をするだけでなく、受けることも勉強という意識を持って授業に臨みましょう。練習を繰り返し行うことが、上達する近道になります。授業内だけでなく、日常の生活の僅かな時間も有効に使い、施術順序を覚え、手を動かしてください。一緒に頑張りましょう。1年間、よろしくお願いいたします。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	基礎的理解、施術上の注意、衛生面、手掌軽擦	マッサージの特徴を理解する。施術の基本姿勢を理解する。手掌軽擦ができる	実習
	2	圧迫法（手掌・把握）：前腕（前側・後側）	基本手技を理解し、各手技の基本動作を体得する。前腕部の施術順序を覚え、手技や動作を正しくできる	実習
	3	揉捏法（手掌・把握）：前腕（前側・後側）		実習
	4	揉捏法（鋸切・把握）：前腕前側		実習
	5	指蹠軽擦、両母指揉捏：前腕後側		実習
	6	前腕外側、叩打法（切打・手拳・環状）		前腕外側と叩打法ができる
	7	下腿部（前側・外側・後側・全体）	下腿部に対するマッサージ手技ができる	実習
	8	前腕部・下腿部に対するマッサージ	前腕部・下腿部のマッサージができる	実習
	9	小テスト	これまでの授業で習った部位への施術ができる	試験
	10	小テストフィードバック		実習
	11	強擦法・膝関節（前側・後側）	膝関節に対するマッサージ手技ができる	実習
	12	肘関節（前側・後側）	肘関節 に対するマッサージ手技ができる	実習
	13	肩関節（前側・後側）	肩関節に対するマッサージ手技ができる	実習
	14	肩関節（上部・下部）	肩関節に対するマッサージ手技ができる	実習
	15	身体各部に対するマッサージ	これまでの授業で習った部位への施術ができる	実習
	16	テスト	これまでの授業内容を理解し、体得できているかを試験する	試験
	17	テスト		試験
	18	テストフィードバック		実習
後期	19	上腕部（前側・後側・外側・全体）	上腕部に対するマッサージ手技ができる	実習
	20	手部（手指と指節間関節・手背・手掌）	手部に対するマッサージ手技ができる	実習
	21	足部（足指・足背・足底（背臥位・腹臥位））	足部に対するマッサージ手技ができる	実習
	22	手関節（背側・掌側）	手関節に対するマッサージ手技ができる	実習
	23	足関節（前側・後側）	足関節に対するマッサージ手技ができる	実習
	24	大腿部（前側・内側・外側・後側・全体）	大腿部に対するマッサージ手技ができる	実習
	25	殿部	殿部に対するマッサージ手技ができる	実習
	26	股関節	股関節に対するマッサージ手技ができる	実習
	27	小テスト		試験
	28	小テストフィードバック		実習
	29	全範囲の復習		実習
	30	全範囲の復習		実習
	31	テスト（上肢下肢全範囲）	これまでの授業内容を理解し、体得できているかを試験する	試験
	32	テスト（上肢下肢全範囲）		試験
	33	テストフィードバック		実習
	34	全範囲の復習		実習
	35	全範囲の復習		実習
	36	全範囲の復習		実習

2025年度 鍼灸マッサージ科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 あん摩マッサージ指圧実習－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	有馬 太郎（ありま たろう）		
単位数	2 単位	実務経験	治療室 院長		
科目必選区分	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習	36 回

【授業情報】

授業概要	指圧の操作はあんま・マッサージと比べ比較的静的であるため、体重の乗せ方の意識がより重要となる。効果的な施術をマスターするために、無駄のない体重移動ができるよう、被術者との距離と自身の立ち位置の理解、実践を、全身各部位にあてはめながらマスターしていく。
授業の一般目標 (GIO)	身体各部位に対して指圧を行える基本技術を習得する。 全身の指圧を行える基本技術を習得する。 体位に応じて指圧を行える技術を習得する。

【担当教員から】

教科書	按摩・マッサージ・指圧（新版）—実技編— 学校法人 呉竹学園
参考書	
成績評価基準	基本手技（圧法）が的確に行えるか。 ・ 押圧の基本（体位・重心移動・指圧の3原則）ができるか。 身体各部の施術順序を理解しているか。 ・ 手順に沿って施術できるか。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合（%）） 期末筆記試験成績——— 15% 期末実技試験成績——— 85%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	指圧の最重要な技術は、目的の組織に向け「真っすぐ圧す」こと、そしてそこに圧を留め「効かせる」ことである。それは効果的な鍼術の技術習得にも直結するものと考えられる。なぜなら、刺激すべき目的の組織に向け真っすぐに鍼を刺入すること、及び鍼が効くことの意味を理解することと共通するからである。よって、なるべく鍼灸臨床をも含めた話題を交え進行していきたい。 また、あん摩・マッサージ・指圧、及び鍼灸は治療行為であるが、さらに高い治療効果を裏付ける要素にリラクゼーション効果も忘れてはならない。毎授業後はクラスメートや家族などを相手に復習し、より多くの人の体に触れて、手指感覚の向上に努めてください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	施術上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>指圧の沿革を説明できる</li> <li>施術者としての注意事項を説明できる</li> <li>高齢者に対する施術の注意事項を説明できる</li> </ul>	実習
	2	基本圧法	<ul style="list-style-type: none"> <li>指圧の基本手技（押圧操作・運動操作）基本圧法の種類を説明できる</li> <li>通常圧法を行うことができる</li> <li>緩圧法を行うことができる</li> <li>持続圧法を行うことができる</li> <li>吸圧法を行うことができる</li> <li>衝圧法を行うことができる</li> <li>振動圧法を行うことができる</li> </ul>	実習
	3		実習	
	4		実習	
	5		実習	
	6	身体各部位の指圧法 Ⅰ. 腹臥位指圧法	<ul style="list-style-type: none"> <li>背部の指圧を行うことができる</li> <li>殿部の指圧を行うことができる</li> </ul>	実習
	7			実習
	8			実習
	9	強化したい手技の練習		実習
	10	身体各部位の指圧法 Ⅰ. 腹臥位指圧法	<ul style="list-style-type: none"> <li>下肢の指圧を行うことができる</li> <li>下肢の運動操作を行うことができる</li> <li>肩・肩背部の指圧を行うことができる</li> </ul>	実習
	11			実習
	12			実習
	13			実習
	14	身体各部位の指圧法 Ⅱ. 背臥位指圧法	<ul style="list-style-type: none"> <li>下肢の指圧（大腿部・下腿部）を行うことができる</li> <li>下肢の指圧（足関節部～足趾）を行うことができる</li> <li>下肢の運動操作を行うことができる</li> <li>上肢の指圧を行うことができる</li> </ul>	実習
	15			実習
	16			実習
	17			実習
	18	前期期末試験		試験
後期	19	前期期末試験のフィードバック 身体各部位の指圧法 Ⅱ. 背臥位指圧法	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭部・顔面部の指圧を行うことができる</li> <li>胸部の指圧を行うことができる</li> <li>腹部の指圧を行うことができる</li> </ul>	実習
	20	実習		
	21	実習		
	22	実習		
	23	身体各部位の指圧法 Ⅲ. 側臥位指圧法	<ul style="list-style-type: none"> <li>頭部の指圧、頸部の指圧、背部の指圧を行うことができる</li> <li>殿部の指圧、下肢の指圧を行うことができる</li> <li>側臥位の指圧を円滑に行うことができる</li> </ul>	実習
	24			実習
	25			実習
	26	強化したい手技の練習		実習
	27	身体各部位の指圧法 Ⅳ. 座位指圧法	<ul style="list-style-type: none"> <li>頸部・肩上部の指圧を行うことができる</li> </ul>	実習
	28			実習
	29	全身指圧法	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹臥位で全身の指圧を行うことができる</li> <li>背臥位で全身の指圧を行うことができる</li> <li>側臥位で全身の指圧を行うことができる</li> <li>座位で全身の指圧を行うことができる</li> </ul>	実習
	30			実習
	31			実習
	32	身体各部位の指圧法 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹臥位で全身の指圧を円滑に行うことができる</li> <li>背臥位で全身の指圧を円滑に行うことができる</li> <li>側臥位で全身の指圧を円滑に行うことができる</li> </ul>	実習
33	実習			
34	後期期末試験		試験	
35	後期期末試験のフィードバック 復習		実習	
36				

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 はり・きゅう実習－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	二ノ坂 和統（にのさか かずと）	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務、治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習 36 回

【授業情報】

授業概要	常に患者様に刺鍼することを意識するようにし、刺鍼練習器で十分に刺入法を練習した後、自己下腿に刺鍼練習を行う。対人刺鍼では、患者を刺鍼に適した姿勢（臥位）に導き、刺鍼の準備を円滑に行うことができるように刺鍼経験に基づいて指導する。また、消毒に関する知識を修得し、正しい手洗いおよび消毒方法を身につけ、安全かつ衛生的に、指示された経穴に刺鍼する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施術にふさわしい身だしなみを理解する。</li> <li>・ 患者に対し、仰臥位・伏臥位・側臥位の姿勢に導き、枕や胸当て、タオルを適切に使うことができる。</li> <li>・ 手指消毒・刺鍼部位の正しい消毒方法を理解し、身につける。</li> <li>・ 安全、衛生的かつ円滑に、刺鍼準備ができる。</li> <li>・ 指定された経穴に直刺・斜刺ができる。</li> <li>・ 抜鍼まで一連の流れを円滑にできる。</li> </ul>

【担当教員から】

教科書	「はりきゅう実技<基礎編>」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	「はりきゅう理論」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
成績評価基準	評価の観点とは1) 実技の習得状況、2) 授業の理解度について、学期ごとに行う中間および期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合(%)） 中間試験成績――20% 期末試験成績――80%（後期は小テスト含む）
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。患者から信頼されるには清潔感のある身だしなみからです。臨床を想定し、身だしなみを整えて授業に臨んでください。
★担当者からの メッセージ	鍼施術は人体への侵襲をともしませんので、安全かつ衛生的に行われなければなりません。そのためには確実な刺鍼操作と衛生面での正しい知識が必要となります。本授業では両者を平行して学びながら、まずは刺鍼練習器で十分に刺鍼法を練習した後、自己下腿、対人施鍼とステップアップしていきます。技術は一朝一夕に身につくものではありません。授業で方法やコツを学び、自主練習で定着させる必要があります。そのためにも授業の出席は欠かせません。治せる治療家を目指し、まずは確実に基礎を身につけましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間、または放課後 1F 職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	施術用具の取り扱いと管理 実技授業の注意点	実技室使用のルールに則り、安全かつ衛生的に使用できる	実習
	2	実技室の使用方法	道具の使い方を理解し、正しく管理できる	実習
	3	手指の洗浄および消毒の方法	手指の洗浄および消毒の意義を理解し、正しい消毒方法を身につける	実習
	4	片手挿管法	両手挿管法・片手挿管法の手順を理解し、実践できる 鍼における過誤を理解し、説明できる	実習
	5	鍼の過誤		実習
	6	管鍼法による刺鍼	管鍼法の正しい手順を理解し、身につける	実習
	7	片手挿管法を反復練習		実習
	8	中間試験	片手挿管法を実践できる	試験
	9	講評・フィードバック	テスト結果を踏まえ、不適な点を理解し、修正する	実習
	10	撚鍼法・打鍼法による刺鍼	撚鍼法の正しい手順を理解し、実践できる 打鍼法のやり方を理解する	実習
	11	刺鍼中の手技を学ぶ	刺鍼中の手技のやり方を理解し、実践する 刺鍼部位の消毒法の意義を理解し、実践する 片手挿管法、管鍼法による刺鍼の総復習	実習
	12	刺鍼部位の消毒法		実習
	13	消毒～刺鍼～抜鍼までの一連の流れ		実習
	14	自己下腿への刺鍼	手指消毒および刺鍼部位の消毒ができる	実習
	15		三陰交・足三里への刺鍼	実習
	16		陽陵泉・陰陵泉・血海への刺鍼	実習
	17	前期期末試験	刺鍼練習器に正しい手順で、刺鍼ができる	試験
	18	講評・フィードバック	テスト結果を踏まえ、不適な点を理解し、修正する	実習
後期	19	対人刺鍼 身体各部の刺鍼（下肢）	下肢の経穴が正しく取穴できる	実習
	20		下肢の経穴に安全かつ衛生的に刺鍼できる	実習
	21		取穴法の小テストを実施	実習
	22	対人刺鍼 身体各部の刺鍼（上肢）	上肢の経穴が正しく取穴できる	実習
	23		上肢の経穴に安全かつ衛生的に刺鍼できる	実習
	24		取穴法の小テストを実施	実習
	25	対人刺鍼 身体各部の刺鍼（腰部）	腰部の経穴が正しく取穴できる	実習
	26		腰部の経穴に安全かつ衛生的に刺鍼できる 取穴法の小テストを実施	実習
	27	中間試験	指定された経穴に、安全かつ衛生的に刺鍼できる （対人で直刺・1部位）	試験
	28	講評・フィードバック	テスト結果を踏まえ、不適な点を理解し、修正する	実習
	29	対人刺鍼 身体各部の刺鍼（腰部）	腰部の経穴が正しく取穴できる 腰部の経穴に安全かつ衛生的に刺鍼できる 取穴法の小テストを実施	実習
	30	対人刺鍼 身体各部の刺鍼（背部）	背部の経穴が正しく取穴できる	実習
	31		背部の経穴に安全かつ衛生的に刺鍼できる 取穴法の小テストを実施	実習
	32	対人刺鍼 身体各部の刺鍼（腹部）	腹部の経穴が正しく取穴できる	実習
	33		腹部の経穴に安全かつ衛生的に刺鍼できる 取穴法の小テストを実施	実習
	34	身体各部の刺鍼（総復習）		実習
	35	後期期末試験	指定された経穴に、安全かつ衛生的に刺鍼できる （対人で直刺および斜刺 2部位）	試験
	36	講評・フィードバック	テスト結果を踏まえ、不適な点を理解し、修正する	実習



## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 はり・きゅう実習－1

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	飯田 双海 (いいた ふたみ)	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所 勤務	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習 36 回

### 【授業情報】

授業概要	患者様の病態に応じて、身体上の適切な部位に適切かつ安全な施灸技術を用いて、患者様の健康増進を図ることを伝え、1 学年次では、一般的に多用する灸法を適切かつ安全に実施するための基本技術・作法を習得することを目標に実習を行う。施術現場での経験を活かし、灸法の基礎知識と衛生・リスク管理の学習を交え、艾(もぐさ)や施灸用具の適切な取扱い方、竹や紙の上での施灸訓練、学生同士での対人施灸訓練を指導する。また、血圧・脈拍測定の方法も学習する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施術にふさわしい身だしなみを整える。</li> <li>・ 艾(もぐさ)、線香や火など施灸用具を適切に取扱ことができる。</li> <li>・ 施灸準備を衛生的、安全かつ円滑に実施できる。</li> <li>・ 艾炷(がいしゅ)を適切な大きさ(糸状、半米粒大、米粒大)で作成できる。</li> <li>・ 施灸動作(点火、灸熱緩和、線香の灰除法、施灸の後処理)を適切に実施できる。</li> <li>・ 一定時間内に、米粒大・半米粒大の透熱灸による連続施灸を一定回数行うことができる。</li> <li>・ 指定された経穴を正しく取穴し、その経穴に安全に施灸できる。</li> <li>・ 血圧・脈拍測定ができる。</li> </ul>

### 【担当教員から】

教科書	「はりきゅう実技<基礎編>」 東洋療法学校協会編 医道の日本社 「はりきゅう理論」 東洋療法学校協会編 医道の日本社 「経絡経穴概論」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
使用教材(道具)	艾(高級艾)、線香、ステンレスシャーレ、竹、手ぬぐい、灸点ペン、指頭消毒器、 クリップ ポット ■ 学生各自で用意するもの：小型の灰皿、ライター、マスク
成績評価基準	評価の観点は 1) 実技の習得状況、2) 授業の理解度について、学期ごとに行う中間および期末試験、進級試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準(評価割合%) 中間試験成績――20% 期末試験成績――80%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要である。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意すること。授業中、お互いの身体上で施灸練習を行う。肌を露出しやすいよう、白衣の内側にはタンクトップやキャミソール、短パンを着用しておくこと。
★担当者からの メッセージ	鍼灸治療を受療される患者様には、灸施術を求める方々も多いです。多少の熱さを伴うものなのに、なぜでしょう？ 効果を実感されている結果ですが、その前提として上手な灸施術を受けたのだと言えるでしょう。灸施術は温熱刺激による皮膚表面への侵襲を伴うので、熱量をコントロールして安全かつ衛生的に行う技術が必要です。しかしながら施灸動作は初学者にとって慣れない動作であり、一朝一夕に身につくものではありません。スポーツ等と同様、基本動作の反復練習をどれだけ実施したかによって技術の進歩に差が見られます。2 年次に学習する応用編に対応する為にも、毎回の授業に出席して方法やコツを学び、自宅で反復練習し、施灸の基本技術を身に着けましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間、または放課後 1F 職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
前期	1	実技授業の説明	実技室使用のルールに則り、安全且つ衛生的に使用できる。	実習	
	2	施術用具の取扱いと管理	道具の使い方を理解し、正しく管理できる。	実習	
	3	灸の基礎知識、灸施術のリスク管理、灸技術の基礎	灸施術における過誤を理解し、説明できる。	実習	
	4		艾ひねりの動作をする。	実習	
	5		米粒大・半米粒大の区別ができる。	実習	
	6	灸技術の基礎	米粒大・半米粒大の艾炷を作成できる。	実習	
	7		竹上で、艾炷に点火、灸熱緩和の各動作ができる。	実習	
	8	中間試験	自身の経穴1つに知熱灸で施灸する(施灸される)。	試験	
	9	講評・フィードバック	艾炷の大きさを適切かつ一定に連続作成する。	実習	
	10		前期前半に学習した内容から試験課題を課し評価する。	試験	
	11		テスト結果を踏まえ、不適な点を理解し、修正する。	実習	
	12	灸技術の基礎	失眠穴	実習	
	13	・竹上で連続施灸	下肢	竹上で、 ・米粒大で連続施灸する。	実習
	14	・対人で取穴、知熱灸		・艾炷の大きさを適切かつ一定に連続施灸する。	実習
	15	・対人で声かけ、タオル掛け	上肢	対人で、 ・施灸前の声かけ、タオルワークができる。	実習
	16			・指定の経穴を正確に取穴できる(骨度法)。 ・指定の経穴に半米粒大で知熱灸を施す。	実習
	17	前期期末試験(実技)		前期に学習した施灸法を、安全・円滑・衛生的に実施できる。	試験
	18	フィードバック		テスト結果を踏まえ、不適な点を理解し、修正する。	実習
後期	19	灸技術の基礎	血圧	竹上で、半米粒大で連続施灸する。	実習
	20	・竹上で連続施灸	脈拍測定	・艾炷の大きさを適切かつ一定に連続施灸する。	実習
	21	・対人で取穴、施灸	腹部	対人で、指定の経穴に半米粒大で知熱灸を施す。	実習
	22	・声かけ、タオル掛け	腰部	・施灸前の声かけ、道具の配置、タオルワークができる。	実習
	23	診察技術	背部	・指定の経穴を正確に取穴できる(骨度法)。	実習
	24	・血圧・脈拍測定	肩背部	血圧・脈拍測定ができる。	実習
	25	・医療面接のメモをとる	医療面接見学	医療面接で模擬患者の訴えを聴き取り、正確にメモできる。	実習
	26	・診療録記入	ロールプレイ	診療録を(一部)記録できる。	実習
	27	中間試験		後期前半に学習した内容から試験課題を課し評価する。	試験
	28	フィードバック		試験結果を踏まえ、不適な点を理解し、修正する。	実習
	29	灸技術の応用		竹上で、2点交互連続多壯灸の手順を行える。	実習
	30	2点交互連続施灸		竹上で、2点交互連続多壯灸の手順を円滑に行える。	実習
	31	・竹上		[失眠]に、2点交互連続多壯灸の手順を円滑に行える。	実習
	32	・対人(失眠穴)		・半米粒大、米粒大による透熱灸または知熱灸	実習
33	前・後期の復習		1分間、竹上に半米粒大や米粒大を使い分けて透熱灸による連続施灸を8壮以上施灸できる。施灸準備、患者対応、施灸動作、術後処理を適切、衛生的、安全に行うことができる。	実習	
34	前・後期の復習			実習	
35	後期期末試験(口頭試問)		後期に学習した内容を正確に説明できる。	試験	
36	後期期末試験(実技)		後期に学習した施灸法を、安全・円滑・衛生的に実施できる。	試験	
37	フィードバック		テスト結果を踏まえ、不適な点を理解し、修正する。	実習	

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅰ

【基本情報】

配当年次	1 学年		担当教員	鍼灸マッサージ科専任教員、臨床実習指導者	
単位数	1 単位			附属施設所勤務など	
科目必選区分	必修		時間数	45	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習	24 回

【授業情報】

授業概要	鍼灸臨床施設での患者の様子とあはき師の基本姿勢、一般的業務の基本事項を見学、体験する。施設所における臨床経験豊富な実習指導員のバックアップのもと、初歩的な患者対応と基本業務の一部を実践し、チームワークの一員として責任をもって他者（施設所スタッフ、指導者、患者、同僚など）との適切な信頼関係構築を図る。実習の回を重ねるごとに、それらについて技術的・精神的に慣れていきながら技術向上を目指す。
授業の一般目標 (GIO)	他者（施設所スタッフ、指導者、患者、同僚など）との適切な信頼関係を構築することができる。臨床施設での初歩的な患者対応と基本業務を実践できる。患者の様子と患者に対するあはき師の基本姿勢を観察し、自己目標・自己課題を見出すことができる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	他授業でのノート、資料など
成績評価基準	あはき師に相応しい身だしなみができる。施設所や臨床実習の規則、指導者の指示、法律を遵守し、適切に行動できる。他者（施設所スタッフ、指導者、患者など）に対し、適切な挨拶や自己紹介ができ、敬意と思いやりを持って対応できる。各業務や課題を積極的に実践し、スタッフや仲間と協力しあうことができる。自己目標・自己課題・自己評価を記録し、課題克服を目指した行動ができる。臨床実習を通じて、医学・臨床について興味のあるテーマを見つけることができる。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合 (%)） 上記評価基準の各内容に対する評価 ----- 50% 課題（レポート等）提出 ----- 50% 各回の実習指導者が上記を評価する。全回終了後、各回の評価をまとめて算出したものを当年度臨床実習の総合評価とする。
履修の条件 留意点	・学生個々に実習日が設定されます。臨床実習のルールに則り、身だしなみを整えて臨んでください。時間厳守で集合してください。 ・臨床実習は出席率 100%も履修条件です。体調不良等やむを得ず出席が困難な場合、速やかに学校へ連絡してください。
★担当者からの メッセージ	鍼灸施術を業務とする上で、ふさわしい身だしなみ、他者（施設所スタッフ、指導者、患者、同僚など）との適切な信頼関係構築、施設の清掃・整理整頓などへの積極性は欠かせません。臨床実習で鍼灸施術施設の一般的業務に積極的に関わり、不慣れな業務や他者とのコミュニケーションへの苦手意識を克服しましょう。また患者さんに対して無礼なく思いやりを持って関わってみましょう。患者さんの健康状態についての事柄、仕事へのやりがい、自身の目標など、新たな発見があり、将来に活かすことでしょう。疑問点が浮かんだ時は、指導教員が共に考えて解決の道を探りますので、積極的に質問してください。
オフィスアワー	授業時間外

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期		臨床実習ガイダンス	・臨床実習の意義、ルール、スケジュールの説明を受け、理解する	講義
	1	当校施術所にて臨床実習 I-1①	・施術所や臨床実習の規則、指導者の指示、法律を遵守し、適切に行動できる ・他者（施術所スタッフ、指導者、患者など）に対し、適切な挨拶や自己紹介ができる	臨床実習
	2	施術所業務を体験する		
	3	当校施術所にて臨床実習 I-1①	・各業務や課題を積極的に実践し、スタッフや仲間と協力しあうことができる ・診察用具に触れてみる	臨床実習
	4	施術所業務を体験する		
	5	学外臨床施設にて臨床実習 I-2	・あはき師に相応しい身だしなみができる ・施術所や臨床実習の規則、指導者の指示、法律を遵守し、患者や施設に迷惑とならぬよう、適切に行動できる。他者（施術所スタッフ、指導者、患者など）に対し、適切な挨拶や自己紹介ができ、敬意と思いやりを持って対応できる ・課題を積極的に実践できる。自己目標・自己課題・自己評価を記録する	臨床実習
	6			
	7	学外臨床施設にて臨床実習 I-2		
	8			
	9	学外臨床施設にて臨床実習 I-2		
	10			
	11	学外臨床施設にて臨床実習 I-2		
12				
後期	13	当校施術所にて臨床実習 I-1②	・施術所や臨床実習の規則、指導者の指示、法律を遵守し、適切に行動できる ・他者（施術所スタッフ、指導者、患者など）に対し、適切な挨拶や自己紹介ができる	臨床実習
	14	施術所業務を体験する		
	15	当校施術所にて臨床実習 I-1②	・各業務や課題を積極的に実践し、スタッフや仲間と協力しあうことができる ・診察用具に触れてみる	臨床実習
	16	施術所業務を体験する		
	17	当校施術所にて臨床実習 I-3	・1回の鍼灸施術の全体像、進め方を知る ・毎回異なる患者それぞれの様子を知る ・患者の愁訴についてメモをとることができる ・診療録の一部を記録できる。 ・自己目標を立てる	臨床実習
	18	鍼灸施術を見学する		
	19	当校施術所にて臨床実習 I-3		
	20	鍼灸施術を見学する		
	21	当校施術所にて臨床実習 I-3		
	22	鍼灸施術を見学する		
	23	当校施術所にて臨床実習 I-3		
	24	鍼灸施術を見学する		

※社会情勢や実習施設等の諸事情により、実施内容や順番を変更する場合があります。

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	谷 功 (たに いさお)	
単位数	1 単位	実務経験	大学教授	
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	8 回

【授業情報】

授業概要	この授業では、健常者とのコミュニケーションだけではなく、高齢者、障がい者といった配慮が必要な方々とのコミュニケーションを図る際の基本的姿勢やその特性に合わせた工夫、また関係職種間との連携やチームワーク等、実際の臨床場面で遭遇するコミュニケーション時に活用できる技法を学んでいく。この授業で学習したコミュニケーションの手法は臨床実習に活かされる。
授業の一般目標 (G10)	他者への情報伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養うとともに、他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を習得する。

【担当教員から】

教科書	配布プリント
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合(%)) 科目試験成績 …… 100%
履修の条件 留意点	科目試験の点が60%以上を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出席には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	授業では積極的に自分の意見を述べるとともに周りの人たちの意見にも耳を傾け、そして相手に共感できる姿勢を意識して臨んで下さい。また、直前の授業で行った内容の復習を行い次回授業に臨むと、より理解が深まると思います。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	人間関係とコミュニケーション ～オリエンテーション／個々人の認知世界～	人間関係を構築する上で必要となる個々人の認知的傾向の存在を理解し、その重要性が説明できる。	講義
	2	人間関係の形成とさまざまな広がり	各発達段階における人間関係の広がりが説明できる。	講義
	3	臨床場面におけるコミュニケーションの基本 ～コミュニケーションの重要性とその手段について～	コミュニケーションの機能と役割、その手段が説明できる。	講義
	4	コミュニケーションの基本・意義・目的 ～対人関係における二者間のコミュニケーションプロセス～	二者間におけるコミュニケーションプロセスが説明できる。	講義
	5	関わりを示す基本動作 ～SOLER理論について～	関わりを示す5つの基本動作が説明できる。	講義
	6	質問の技法／納得と同意を得る技法 ～明確化・焦点化・要約の技法・助言トレーニング～	質問の機能と役割が説明できる。	講義
	7	患者の特性に応じたコミュニケーションの実際 ～高齢者とのコミュニケーションの方法と留意点～	高齢者とのコミュニケーション時における留意点が説明できる。	講義
	8	科目試験／解説		試験/講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	月野和 美砂（つきのわ みさ）	
単位数	1 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	前期	授業形態・回数	VOD	8 回

【授業情報】

授業概要	<p>人が心身ともに健康に生きる上では食生活は大切です。1日3度の食事により十分な栄養が毎回補給されなければ体は疲れ、やる気もなくなってきます。そこで身体に最も必要な基本の5大栄養素を一つずつ取り上げます。</p> <p>栄養が入った“食品”群や栄養の入った食品から作った“料理”で日々の栄養バランスをとる方法や基礎代謝や身体活動量などのエネルギー収支について、また各種栄養素の過不足から来る体のさまざまな不快な症状とその予防や改善のための食物、食べ方についてとりあげます。</p>
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5大栄養素についてその役割やどのような食材に多いかがわかる。</li> <li>・ 各栄養素の過不足がもたらす体の不調を理解する。</li> <li>・ BMI を計算し、適正体重を計算することができる。</li> <li>・ 栄養素の過不足による体調不良を予防・改善するための食生活上のポイントを理解する。</li> </ul>

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	<p>○授業の理解度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的知識の修得</li> <li>・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無</li> </ul>
成績評価方法	VODごとの課題（またはレポート）の評価をもって成績とする。
履修の条件留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業回数の3分の2以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からのメッセージ	<p>施術者自らが健康であることは大変重要です。そのためには睡眠と共に何をいつ、どう食べるかも大切。授業では健康な食生活を送るために必要な食事について5大栄養素で説明を進めます。授業を通じて生活に取り入れられることは実践してみてください。この授業で得たことを将来、現場でどう使えるかな？とイメージしながら受けてくださいね。（身近な体験談《食事のこと、鍼灸や柔整の》も織り交ぜながらお話しできるかと思います）</p>
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	5大栄養素概要「炭水化物」①	炭水化物の種類と役割が説明できる	VOD
	2	5大栄養素「炭水化物」②	炭水化物を多く含む食品が説明できる	VOD
	3	5大栄養素「脂質」	脂質の栄養的特徴が説明できる 脂質を多く含む食品が説明できる	VOD
	4	5大栄養素「たんぱく質」①	たんぱく質の種類と役割について説明できる。	VOD
	5	5大栄養素「たんぱく質」②	たんぱく質を多く含む食品が説明できる。	VOD
	6	5大栄養素「無機質」	無機質の種類と役割について説明できる。日本人に特に不足している無機質について説明できる。	VOD
	7	5大栄養素「ビタミン」①	ビタミンの大まかな種類と特徴について説明できる。	VOD
	8	5大栄養素「ビタミン」②食事摂取基準、エネルギーの指標、各種食品群	ビタミンを多く含む食品が説明できる。 食事摂取基準や食品群について簡単に説明できる。	VOD



2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	根岸 雅美 (ねぎし まさみ)	
単位数	1 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	8 回

【授業情報】

授業概要	英語初心者の医療従事者向けに「診察でよく使う基本的なフレーズ」を取り上げ、外国人の患者とコミュニケーションがとれるようフレーズ練習を行う。例文内の単語や文法の解説に加え、時折英語のVOD教材やフォニックス教材にも触れ、ヒアリング・スピーキング力の向上を図りつつ、リアルな英文に接する機会も維持する。
授業の一般目標 (G10)	医療現場で英語を使って仕事ができることを目指す。また、医療に関する最新のニュース記事などを独力で聞き取れる力を伸ばす。

【担当教員から】

教科書	必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。
参考書	音声と例文で覚える、英語医療単語1000 (株; 南雲堂) 病院スタッフ・シチュエーション英会話 (メジカルビュー社)
成績評価基準	定期試験: シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 課題(レポート・小テスト等): レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合(%)) 期末(到達目標達成確認) 試験成績・・・95% (課題等を行わなかった場合は100%) 課題等・・・5% (課題等を行った場合の加算割合)
履修の条件 留意点	課題の評価を合計して60%以上で履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出席には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	知っている英単語でも、ナチュラルスピードで話されると耳でキャッチできないことが多い。そのため、普段からできるだけ英語を聞いて理解する訓練をしてほしい。また、授業で扱う医療に関する英語の語彙はすべて聞き取れてさらに使えるよう練習してほしい。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	英語を学ぶ意味と方法、医療面接の概要	オーラル英語を聞き取る上での基本を学び、専門に関わる英語を聞いて理解し、さらには使えることを目指す。また、専門に関わる語彙、表現を読んで理解できるようにする。	講義
	2	医療面接の基本的なフレーズ演習1 (主訴)		講義
	3	医療面接の基本的なフレーズ演習2 (現病歴)		講義
	4	医療面接の基本的なフレーズ演習3 (現病歴2)		講義
	5	医療面接の基本的なフレーズ演習4 (既往歴)		講義
	6	医療面接の基本的なフレーズ演習5 (既往歴2)		講義
	7	医療面接の基本的なフレーズ演習6 (家族歴、生活習慣、アレルギー歴等)		講義
	8	試験 (到達目標達成確認)		試験

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	佐藤 由紀夫（さとう ゆきお）	
単位数	2 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	30	
開講学期	前期	授業形態・回数	VOD	15 回

### 【授業情報】

授業概要	細胞から始まり生物を構成する物質、代謝、遺伝子など生物の基礎を学ぶ。高校生物基礎の学習内容を基本としつつ医療への道へ進む学生の進路に役立つ基礎教養を重点的に学べるような内容とする。
授業の一般目標 (G10)	生物全般の基本を学ぶが特に細胞、DNAと遺伝子、免疫を中心に学ぶ。

### 【担当教員から】

教科書	授業中に配布する資料を使うため、教科書は設定しない
参考書	高校教科書の「生物」あるいは参考書
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無
成績評価方法	VODごとの課題（またはレポート）の評価をもって成績とする。
履修の条件 留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業回数の3分の2以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からの メッセージ	講義内容は復習し、興味を持ったことは積極的に調べてください。オンデマンドは2倍速で聞くと重要事項を聞き漏らすことがあります（注意）。毎講義後、簡単な確認試験を行います。
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	生命の共通性としての細胞	細胞の基本について説明できる。	VOD
	2	細胞・組織・物質	細胞、組織、そしてそれを構成する物質について理解し説明できる。	VOD
	3	酵素・代謝・ATP	酵素の性質や光合成・呼吸を説明できる。	VOD
	4	遺伝子とDNA	遺伝子やDNAについて、その構造、複製方法について理解し説明できる。	VOD
	5	遺伝子の複製と体細胞分裂	DNAの複製と細胞分裂について理解し説明できる。	VOD
	6	遺伝情報の発現	DNAの遺伝情報をもとにタンパクが合成される過程を説明できる。	VOD
	7	バイオテクノロジー1	遺伝子組換え電気泳動などバイオテクノロジーの基本を理解し説明できる。	VOD
	8	バイオテクノロジー2	組換え作物の作り方や医薬品への応用などを理解し説明できる。	VOD
	9	バイオテクノロジー3	PCR法、ゲノム編集などがどのように利用されているかを理解し説明できる。	VOD
	10	体液・血球・血液凝固	体液の基本と血液凝固について理解し説明できる。	VOD
	11	血液循環と酸素の運搬	血液の循環と酸素の運搬について理解し説明できる。	VOD
	12	自然免疫	免疫に関係する血球について基礎を理解し、自然免疫について	VOD
	13	獲得免疫	細胞性免疫、体液性免疫の仕組みについて理解し説明できる。	VOD
	14	免疫と社会生活	感染症やワクチン、抗原検査、PCRなどについて理解し説明できる。	VOD
	15	生物学と社会	社会生活において生物学がどのように役立っているかを理解し考えることができる。	YOD

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	岡崎 弘幸（おかざき ひろゆき）	
単位数	2 単位	実務経験	高校教諭（生物）・大学非常勤講師・元NHK高校講座講師	
科目必選区分	必修	時間数	30	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	VOD 15 回

### 【授業情報】

授業概要	将来、医療道へ進むにあたり、ヒトの体を生物学的視点から見るときの基礎を学ぶ（動物学一般の内容も含む）。その中で、特にヒトの体を構成する細胞、骨格と筋肉収縮、神経系と行動、恒常性の維持（血液や内分泌系）、生体防御、人間生活を取り巻く環境などを中心に学習する。
授業の一般目標 (G10)	ヒトの体の構造やヒトの体のさまざまな生命現象に興味や関心を持ち、常に疑問を抱きながらその解決に向けて探究心を高める。また基本的な概念や原理・法則などを系統的に理解し、他の授業とも関連させることができる。具体的には現代生物学の基礎となる細胞や代謝、健康にかかわる恒常性の維持、ヒトと環境の関係にかかわる生態系などの内容を理解し説明できる。

### 【担当教員から】

教科書	オンデマンドで配布する資料等（教科書は設定しない）
参考書	「解剖生理」（医歯薬出版）、「高校生物基礎」・「生物」の教科書や生物図説
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無
成績評価方法	VODごとの課題（またはレポート）の評価をもって成績とする。
履修の条件 留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業回数の3分の2以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からの メッセージ	講義内容は復習し、興味を持ったことは積極的に調べてください。
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期 後期	1	生命とは何か？ －車は生物ではないのか－	生命の特徴について理解し、生物の共通性と多様性、ヒトの特徴が説明できる。	VOD
	2	からだは細胞からできている －細胞のつくりとはたらき－	生物の体が細胞からできていることを理解し、細胞の構造と機能が説明できる。	VOD
	3	からだを動かす仕組み －骨と筋肉の基礎－	からだを動かす仕組みとしての骨格系と筋肉を理解し、筋肉収縮のしくみが説明できる。	VOD
	4	情報の入力装置としての感覚器 －視覚器と聴覚器－	光や音などの刺激を受容する眼や耳の構造と機能を理解し、見える仕組み、聞こえる仕組みを説明できる。	VOD
	5	情報伝達のしくみ －神経のつくりとはたらき－	情報を伝達する神経細胞を理解し、興奮の伝導と伝達を説明できる。	VOD
	6	中枢神経系 －脳と脊髄のはたらき－	中枢神経系の脳と脊髄について理解し、働きを説明できる。また反射についても説明できる。	VOD
	7	動物の行動 －ヒトの行動を生物学的観点から見る－	ヒト（哺乳類）のさまざまな行動を生得的行動と習得的行動から理解し、説明できる。	VOD
	8	細胞は化学工場 －細胞の中で行われる反応－	酵素、ATP、細胞膜と浸透圧、細胞呼吸の仕組みを理解し、簡単に説明できる。	VOD
	9	消化と吸収 －胃腸と肝臓のはたらき－	哺乳類の消化管やヒトの消化管について理解し、消化管のはたらきを説明できる。	VOD
	10	腎臓のつくりとはたらき	浸透圧調節について理解し、腎臓の構造と機能、人工透析などを説明できる。	VOD
	11	ヒトの呼吸器系・循環器系	肺や心臓の構造と働き、酸素解離曲線、二酸化炭素の運搬等について理解し、説明できる。	VOD
	12	血糖量を一定に保つ仕組み －ホルモンと自律神経の協働－	自律神経系とホルモン（内分泌系）の協働作用を理解し、血糖量の調節を説明できる。	VOD
	13	生体防御システム －血液凝固と免疫機構－	生体防御システムとして血液凝固や免疫機構を理解し、その仕組みを説明できる。	VOD
	14	ヒトの生殖細胞の形成と発生	生殖細胞の形成や受精卵から命が誕生する過程を理解し、生殖細胞の形成について説明できる。	VOD
	15	ヒトと環境 －生態系の中のヒト－	生物と環境の関係や環境問題を理解し、生態系や物質循環、環境問題を説明できる。	YOD

## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	吉崎 正恒（よしざき まさつね）	
単位数	1 単位	実務経験	高校教諭	
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	後期	授業形態・回数	VOD	8 回

### 【授業情報】

授業概要	漢字の学習、作文の書き方、文章読解の方法などを総合的に学習する。教材はすべてプリントを配付し、それをもって講義を行う。
授業の一般目標 (G10)	これから、さまざまな講義を受けるための読解能力、将来、仕事に就いたときの一般教養など、さまざまな観点から日本語について学ぶ。

### 【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	『パスポート』（桐原書店） 『常用漢字アルファ』（桐原書店） ただし、購入の必要なし。すべてプリントを配付する。
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無
成績評価方法	学業成績の評価は、漢字の理解、作文の理解などを中心に試験の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。
履修の条件 留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業回数の3分の2以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。 授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からの メッセージ	将来必要な日本語の知識を習得する気持ちが必要です。
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	漢字の学習	難読漢字を読み、自分の知識を広める。 難読漢字の前半を行う。	VOD
	2	作文の学習	文章の構成を知り、誤りのある文章を添削しながら、書くことの楽しさを知る。	VOD
	3	作文の学習	実際に作文を書いてみる。1000字程度の作文を課す。	VOD
	4	履歴書の学習	履歴書についての考え方と書き方を学ぶ。	VOD
	5	手紙の学習	手紙やビジネス文書の書き方を学ぶ。	VOD
	6	面接の学習	面接試験の考え方と答え方を学ぶ。	VOD
	7	文章の読解	文章を読む楽しさと目のつけどころについて学ぶ。	VOD
	8	文章の読解	文章の展開をつかみ、その感想をまとめる。	VOD



## 2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅰ

### 【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	津野田 聡子（つのだ さとこ）	
単位数	2 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	30	
開講学期	後期	授業形態・回数	VOD	15 回

### 【授業情報】

授業概要	心理学の基礎的な知見を習得することで心の問題に関する科学的視点を養い、深い人間理解を目指す。
授業の一般目標 (G10)	コミュニケーションと、それに関わる諸問題を理解した上で、実習をまじえコミュニケーション・スキルの獲得、上達を目指す。

### 【担当教員から】

教科書	必要に応じてプリントの配布、資料の提示などを行う。
参考書	参考書に関しては必要に応じて、授業中に指示する。
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無
成績評価方法	VODごとの課題（またはレポート）の評価をもって成績とする。
履修の条件 留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業回数の3分の2以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からの メッセージ	授業中は積極的にメモを取ること。そして、授業で学んだことを元に、日常生活における心理学的な事柄について考察する姿勢を受講生に求めます。心理学ではどの様にして「心を理解しようとしているか」を考えながら授業に臨んで下さい。
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
後期	1	コミュニケーション心理学	心理学という学問に対する正しい理解を得る。	VOD
	2	心理学の歴史		VOD
	3	進化と心		VOD
	4	発達：乳幼児期の発達		VOD
	5	発達段階説, life cycle, identity		VOD
	6	性格と知能：理論と検査		VOD
	7	感覚と知覚：外界をしめるメカニズム、錯視		VOD
	8	動機づけ		VOD
	9	学習：条件づけ		VOD
	10	記憶①：記憶の理論と特性		VOD
	11	記憶②：記憶の低下、日常的な記憶		VOD
	12	臨床心理：ストレス、心理病理等		VOD
	13	社会心理		VOD
	14	神経心理①：脳と心		VOD
	15	神経心理②：脳損傷と心的機能		YOD